

會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號六第 卷二十五第

月六年六十和昭

哀辭 故山本博士遺影及署名

## 論叢

支那の農家と田賦附加税……………經濟學博士 八木芳之助

佛印幣制論……………經濟學博士 松岡孝兒

企業者労働費論……………經濟學士 大塚一朗

貨幣流通期間と平均生産期間……………經濟學士 青山秀夫

## 時論

重慶政府の戦時物價政策……………十龜盛次

## 記事

山本博士逝く

追憶文

神戸 正雄 末廣 重雄 牧野 虎次 中瀬古六郎 本庄榮治郎

谷口 吉彦 松岡 孝兒 大塚 一朗 堀江 保藏 穂積 文雄

高木 眞助 蟻川 虎三 石川 興二 金持 一郎 岡本 清造

## 附錄

彙報

外國雜誌論題

本誌第五十二卷總目錄

哀 辭

昭和十六年五月十三日 京都帝國大學名譽教授 法學博士 山本  
美越乃先生 溘焉として逝去せらる 年を享くること六十有八 嗚  
呼悲しい哉

先生は明治三十六年京都帝國大學法科大學の課程を修了し ついで大阪高等商業學校 山口高等商業學校に職を奉し 四十五年二月京都帝國大學法科大學助教授となり 大正七年教授に進み 昭和九年二月定年を以て退職し 同年三月本學名譽教授の名稱を授けらる 本學部に於ける植民政策の講義は實に先生を以て窺まる 而も我國における斯學の理論的體系は 先生によりて始めて確立せられたる所にして 水産經濟も亦前人未到の領域を攻究せるものといふべし かくてその專攻する所の學を以て學界に不朽の貢獻をなせしの

みならず　また經濟學部長　評議員として　或は總長事務取扱として　本學の運営に力を致せり　その功亦没すべからざるものあり　先生はまた京都帝國大學經濟學會の評議員として　或は編輯擔任として　會務に盡瘁せられたること少からず　且本誌に寄せられたる幾多の研究は　學界不朽の論說として　本誌に光彩を加へたること幾何なるやを知らず　本會の先生に負ふ所亦少からざるを覺ゆ　先生居常極めて眞摯　その堅持するところの信念に従つて行動し　些事と雖も苟もせず　その嚴正なる態度と謹厚なる人格とは　以て師表とするに足る　今や幽明境を異にしてまたその風格に接するを得ず　茲に謹みて先生の遺影を掲げ　以て哀悼の誠意を表す

昭和十六年五月

京都帝國大學經濟學會



山本武敏